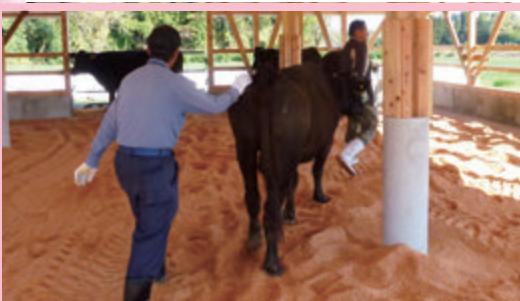


社会福祉法人天上会 広報誌

2020年 春号

ひろば



事|業|所|活|動|紹|介|



障害福祉サービス事業所

カイロス

牛舎建設にあたり今後の展望

施設長 松元 輝徳

年号が令和に変わり一年が過ぎようとしています、そんな中、昨年は待望の新築牛舎が完成いたしました。牛と私たち（天主会）の出会いは30年前の平成2年でした。丸太で作った掘っ建て小屋に2頭の牛（繁殖牛）がやって来ました。間近で見る牛に利用者の皆さんも興奮されていたことを思い出します。同じころ新しく入所されてきた男性利用者の方が、自宅で牛の世話をされていたということで通常の管理を率先してくださいました。生まれてくる子牛でだんだん牛舎も狭くなり平成4年に新たな牛舎を建て周辺の農地を借用して牧草を作り本格的な畜産事業が始まりました。頭数も徐々に増え老朽化してきた事もあり今回の新しい牛舎の建設にあたりました。



現在飼育している牛は（1／1現在）繁殖牛12頭・育成牛1頭・子牛7頭です。繁殖牛とは、母牛に人工授精し、子牛を生ませ、その子牛を育て、9ヶ月後に出荷します。繁殖経営では年1産確実に子牛を出産させる事が求められるので出産後2～3ヶ月内には次の妊娠をさせるため、発情を見逃さぬよう観察が大事な仕事となります。今後の計画としては、5年後繁殖牛20頭を目標に就労事業として利用者の工賃向上に反映出来るよう、又鹿児島黒牛として地域の一畜産経営者として地域と連携を取りながら市場で評価されるようなびのびした子牛が出荷できるよう日々観察をしっかりして行きたいと思います。

牛セリ風景

牛セリ 1 競りの順番待ち

牛セリ 2 市場内に何頭もの牛が並ぶ。毎月3日間の子牛競り市で、千頭を超える子牛が集まります。

牛セリ 3 いざ、競場へ

牛セリ 4 競り場へ向かう途中で、体重計測。

牛セリ 5 競り場にて

牛セリ 6 落札

牛セリ 7 購買者のもとへ…

保護者さまの声

今回のインタビューは、学童療育るうとの保護者様です。
活動への取り組みなどをうかがってみました。

～キャンドルツリーによせて～

保護者 中野友翔さん母

早いもので今回が最後のクリスマス会になりました。

めぶき園に通い始めた1歳の頃は、これから成長に色々な心配をしていました。

言葉がなかなか出なくて、ちゃんと言葉が話せるようになるのか…少しずつしかご飯が食べられなくてあまり体重も増えないが…と悩んだ頃もありました。

でも、今では学校から帰ってくると1日の出来事をたくさん教えてくれるようになりました。食べる事も大好きになり順調に体重は増えました。今はもう、家族の中で1番重くなりダイエットをするほどです。

学年が上がるにつれて、1人で出来ることが増えてい



き、今ではカレーを作ってくれたり、洗濯物をたたんでくれたりと、手伝いをたくさんしてくれます。

少しづつ、ゆっくりですが、着実に、大きく、とても優しい子に成長してくれたと思います。小さかったあの頃に想像していた以上です。

めぶき園から学童療育るうとへ…小さい頃から温かく見守り指導してくださる大村先生をはじめ、たくさんの先生方やお友達に恵まれて、毎週るうとに行くのをとても楽しみにしていました。

るうとに通えるのもあと少しだと思うと親子共に寂しくなりますが、3月の卒園の時まで、楽しく通いたいと思います。よろしくお願ひします。



令和2年度 新任職員紹介

令和2年度4月より新たに当法人に入職した6名の職員をご紹介します。新しい仲間と共に、より質の高いサービス提供に努めて参ります。



①アピールポイント ②仕事に欠かせないもの ③リフレッシュ方法 ④好きな言葉



おおすみ障害者就業・生活支援センター

白坂 紀江

①前職のB型事業所で、利用者の方やご家族のサポートを行ってきました。心を込めて対応することで、相手の心を開くことができる事を知り、福祉の仕事が好きになりました。その経験が今後の仕事にも生かされるのではないかと思います。
②余裕。
③わんこ(トイ・プードル)と1歳4ヶ月の娘に癒されます。
④ありがとう！一期一会。



照葉の森

江口 多美子

①利用者がホームの中で、安心して楽しく暮らしていけるような対応を心掛けたいと思います。
②自分が心身共に健康であること。ほう(報告)・れん(連絡)・そう(相談)。
③園芸、歌手のコンサート観賞。
④初心忘るべからず。



わたぼうし

小高峯 知子

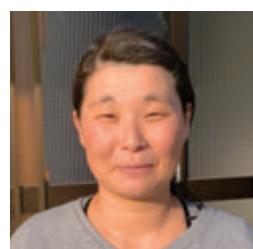
- ①年齢の割には動けます。
- ②コミュニケーション。
- ③買い物。
- ④一生懸命。



カイロス

村場 重穂

- ①協調性がある。
- ②心の余裕。
- ③体を動かす(スポーツ)。
- ④數えきれない悔しさが私を強くした。



カイロス

小島 宏美

- ①パン作りが好き！
- ②信頼関係。
- ③家族3人でドライブ。
- ④感謝。子供が言ってくれる、「お母さんありがとう」。



障害者支援施設 新樹楽園

江野 栄次

- ①運の良さ。
- ②感謝の気持ちを忘れない事。
- ③ドライブ。
- ④石橋を叩いて渡る。

利用者の皆さんと共に生きる私たち支援員。
その一人ひとりが、
より良いサービスをカタチにできるよう
さまざまな想いを胸に支援に取り組んでいます。

今年一番印象に残ったことは、〇〇君の熊本に住む祖父母から、はなのこ園宛てに頂いた一通の手紙です。

「〇〇は生まれながらに障がいを抱えておりますが、一生懸命に生き、生かされております。私達にとりましては大事な孫、そして宝であります。年を重ねるにつれ、その成長を感じておりますが、これも皆様の献身的な支えのおかげだと思っております。はなのこ園で楽しく過ごせている写真を拝見し、感謝の念しかございません」（一文）。

ご家族から声を掛けられる「いつもお世話になります」「ありがとうございます」ということばを、「あいさつ」のように聞き、そのまま聞き流していることに、この手紙を読んで気づかされました。

御家族はどのような思いで自分の子どもをはなのこ園に通わせているのか、どのような支援を求めているのか、自分達はどのような関わりをすべきなのか、再び考えさせられる手紙だったと思います。

照葉の森
—世話人—
山田 玲子

私が勤務する照葉の森が展開しているグループホームでのこと。

今年、あるグループホームで事件が発生しました。その事件は、警察を呼ぶ騒動となり、警察車両が赤色灯を回転

させ、物々しい雰囲気だったことを思い出します。実はその前にも近くに住む障がいのある方がある事件を引き起こし、警察を呼ぶ騒動があったばかりでした。立て続けに発生した2件の事件（1件はホーム利用者は関与していませんが・・・）で、私たちのグループホームも存続が危ぶまれるような雰囲気となり、近隣の住民からも厳しい言葉や眼差しを向けられました。

私は、これまでこの場所に暮らし、積み上げてきた利用者の生活を思うと不憫でならず、「地域に根差す事を目指すホームに生まれ変わろう！」と利用者に呼びかけ、話し合いました。そして、

- ①挨拶をしっかりしよう！（こちらから先に気付いて挨拶。また、見知らぬ人でもすれ違う時挨拶をしよう。）
- ②月1回の奉仕作業、第一日曜日！（草取り、道路の掃除等々）

上記2点をしていこうと提案しました。利用者の中に



障がい福祉

支援 の

はなのこ園
—理学療法士—
中村 修一郎



は、「何で何もしていない自分たちがしないといけないのか。」といった不満や意見もあるなか、「とりあえずやってみよう。」と言うことになり、翌月の第一日曜日から始めることにしました。私が8時に来て、「さあ、始めましょう」と各利用者の部屋の前で声掛けし、ぶつぶつ不満を漏らしながら出てくる利用者もいましたが、いざ作業を始めると、皆一生懸命取り組んで下さいました。季節に応じて、暑い時間を避けるために開始時間を7時に行ったり、6時に行ったりしました。そうすると、少しずつ利用者の心境にも変化が見られるようになりました。今では声掛けが無くても進んで草取りしたり、掃除をしたりするようになりました。

そして今では、声掛けが無くても自分たちで草取りや掃除を行い綺麗にすることを率先して行うようになりました。そうすることで、近隣住民から「道路が綺麗になりましたね」「草がなくてきれいですね」「掃除は第一日曜でしたよね」「この木を切ってください」と嬉しい言葉を掛けられるようになりました。また、「食べてください」と菓子折りを頂くことや、利用者の顔を覚え、名前で呼んでくださるようになりました。

これからも地域に溶け込めるホームを目指し、ふつうに生活できるようにこの活動を続けて行きたいと思います。

現場から



本部
—事務員—
田島 涼子

今年一番心に残ったことと言えば、あるご家族のことでしょうか。

鹿屋で生活を送っていることは認識していても、近くにいるわけではないので間近に感じることは、これまで少なかったのですが、私たちの近くに引っ越しして来て彼らの生活に触れることが多くなりました。

灯油を届けたり、電気の具合を見にいったり、引っ越し後の彼らの住まいに何度もお邪魔したのですが、そうした中で一番びっくりしたのが、お母さまの子育てに対する姿勢でした。「こんばんは」と私が玄関に立つと、そのお母さんは「ほら、こんばんはは？」とか「こんにちは？」と、必ず子どもに声かけをします。そしてそれを受けて「こんばんは」「こんにちは」と、子どもも恥ずかしそうに挨拶します。

日常の生活そのものと言えばそうなのですが、お母さまが子どもの事を、礼儀正しく後ろ指をさされないよう育てようと一生懸命になっている姿が私たちが常日頃忘れがちなことを思い起こさせてくれてになりました。

自分の子育てを振り返っても、「ここまで声かけをし

新樹楽園の入所利用者の高齢化が進む中で、看護師としての今迄の経験が活かされているのか、自問自答を繰り返す1年だったように思う。骨折を繰り返し、その結果、骨粗しょう症の診断が下されたり、高脂血症、泌尿科疾患の方々も多くなり、まさに高齢化特有の疾患を発症する方々が増えてきている。

また、利用者の方々は、体調不良を正確に表現することは難しいため、その変化を、日々のあらゆる情報の中から見出さなければならないという責任に対しての不安も日々感じている。その中でも、利用者の方の認知機能の低下による様々な変化があり、身体的な検査では、何ら問題はないが、認知、精神面、行動面での明らかな低下という問題に直面し、看護師としての不安、もどかしさ、はがゆさなど様々な感情を抱きながらも、ある種の覚悟を持つ必要もあることを感じた。

日々変化していく利用者の姿を目の当たりにして、知的なハンディがある方に対して、何か明確な診断方法はないのか、せめて、進行を遅くする手立てはないのか、など1人の変化に対して、戸惑いの日々が今も続いている。このことは多くの職員と議論し、悩み、助言をもらい、いろいろな感情を抱いたことで、自分を見つめ直す機会にもなったように思う。

今後も、さまざまな問題に直面すると思うが、命と向き合いながら、その人らしさを忘れず、笑顔で、生活して頂けるよう寄り添っていけたらと思う。



てきたかな？」「まだ、小さいから……」を言い訳におぎなりにしてこなかっただろうか……自分が恥ずかしくなりました。

お父さんも一生懸命です。「一緒に勉強したよ」とか「一緒に草取りしたよ」とか、こどもと一緒に何かをやろうという姿がいじらしいほどです。

彼らは誰かの助けを借りないと、できないこともあると思います。でも、「家族と一緒に過ごしたい！」という思いは私たちと一緒に。というより周りからとやかく言われることが多い分、その思いは強いように思います。

いずれこどもが大きくなり、中学生・高校生になり広い世界に出たときに悩む時期が来るかもしれません。しかし、福祉に携わる自分達が身近にいることで、少しでも目線が変わってくれたら、広い目をもてたら…など、彼に期待する一方で、自分達の姿を間近でみられている、ということを忘れてはならないと思います。

今、この小さなコミュニティで育まれている「共に地域で暮らすお隣さん」。そんな彼らが、今年一番の印象的な姿です。

新樹楽園
—看護師—
宮原 文子

法人・事業所報告

新愛カフェ

支援員 松元 あゆみ

10月25日に、星塚敬愛園看護学校跡地にて「新愛カフェ」が開催されました。このカフェは、星塚敬愛園や地域の方々、新樹楽園の交流を目的として、新樹楽園の利用者の皆様と職員とでおもてなしをさせて頂きました。

当日は敬愛園の利用者さん、職員、地域の方々等、沢山のお客様が来場して下さり、利用者の皆様も張り切ってウェイター・ウェイトレスとしておもてなしして下さいました。

初めての試みで慣れない事ばかりでしたが、保護者の方々のご協力もありとても心強かったです。利用者の皆様の働く姿、おもてなしの心に感動しながら、素敵な時間を過ごすことができました。



障害福祉サービス事業所 カイロス

天会運動会

体育委員会 柿元 祐志

令和元年の11月10日に31回目となる天会運動会を開催しました。新樹楽園利用者をはじめ、カイロス、照葉の森、めぶき園、るうと、はなのこ等、普段ではなかなか顔を合わせることが無い人たちが一堂に会し、玉入れやパン食い競争などの競技を懸命に取り組まれた一日となりました。

お昼休みには新樹楽園の職員方が今年のラグビーブームを受けて、ニュージーランド代表の演武「ハカ」をアレンジして披露し、会場は大きな歓声と笑い声に包まれました。

最後は全利用者、保護者一丸となり、恒例のソーランしぶきでこの日最後の競技を終えました。大きな事故や



ケガもなく、楽しく、無事に運動会を終えることができました。

ご参加くださった来賓、ボランティア、保護者の皆様方のご協力ありがとうございました。



障害者支援施設 新樹樂園

防災訓練

主任 谷山 ゆうこ

令和元年11月23日(土)に、新樹樂園で、夜間の火災発生を想定した避難訓練を行いました。この日は地元の消防団、西俣分団のご協力を頂き、利用者を建物外まで避難誘導し、逃げ遅れ者を担架で運ぶなど、実践ながらの訓練でした。利用者の方は毎月の訓練の賜物で、非常ベルがなっても動搖せず職員の誘導で慌てず避難されました。部屋に戻ろうとされる方もいらっしゃり注意が必要でした。

新樹樂園では、夜勤者2名・宿直者1名の3名で夜間帯従事しています。万が一、火災など災害が発生した場合、その3名で利用者の方の命を守っていかなければなりません。一刻を争う中で3名の連携は非常に重要です。応援が来るまでの間、出来るだけ安全なところに利用者を避難しようと必死になって取り組んでいます。利用者の方の高齢化が進んでおり、避難誘導も年々大変になって

きています。実際夜間に火災が起った場合には、地域住民の方々の協力が必要であると強く感じます。

この日は、地域の西俣分団6名の方が参加され、ポンプ車を出動し、建物への消火活動も行いました。消火器や担架の使い方、紐の結び方など実演して下さり、職員も体験しました。

災害はいつ降りかかるか分かりません。日頃から心構えをしっかりと持ち、訓練を繰り返し行うことで、安心して生活出来るよう努めていきたいと思います。



めぶき園・はなこ園

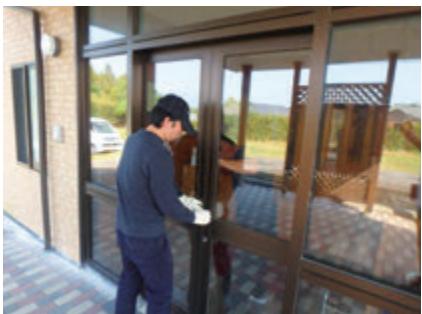
不審者対策訓練

保育士 牧 かれん

令和元年11月11日(月)にめぶき園・はなこ園で不審者対策訓練を行いました。肝付警察署から警察の方々に来ていただき、訓練・ご指導をしていただきました。不法侵入者対策マニュアルを作り職員間で役割を分担して実施し、ドアや窓の施錠・カーテンを閉める等の対応は良好、施設周辺にブロック等が置いてありガラスを割つて侵入してくる可能性があるので施設周辺の整備を行うことが大事ということが分かりました。

訓練後には警察の方々からサスマタのご指導をしていただき、肩と脇を押さえるよう斜めにする、関節を狙う、人間の構造上力を出させない方法等アドバイスをいただきました。

実際に訓練を行うことで、もし起きたときに最もベストな対応ができるように感覚や動きを鍛えておくことが大事だと思いました。子ども達にとっても、いい経験になれた訓練だったと思います。防犯に対する意識を高めて、真剣に訓練を積み重ねていきたいと思います。



支える人

第5回



「陶芸ボランティアの皆さんに質問」

毎週第3木曜日と金曜日に、新樹楽園利用者（午前）とカイロス利用者（午後）を対象に陶芸クラブをしています。そんな陶芸クラブを支えてくださっているのが、今回ご紹介する陶芸ボランティアの皆さんです。利用者の皆さんがあろうとしている作品を見守りながら、利用者からあふれる発想を形にしてくださっています。そんなボランティアの皆さんに、下記の質問をしてみました。

質問内容

Q1 陶芸ボランティアを始めたきっかけ
(いつ頃から始めましたか?)

Q2 陶芸を通して利用者と関わってみて感じること（関わる前と今の心境の変化など）

Q3 陶芸を通して、利用者とやってみたいこと



A1 陶芸ボランティアに男手が欲しいと聞き参加しました。5年ほど前から。



◆市川 淳治様

A2 各々個性が強く有り、出来る限り作りたい物が作れるように助力できたらと思っています。

A3 特になし

A1 平成13年ごろより、保元さん、今泉さんと知り合いとなり、平成16年ごろより肝付町合併後、福祉センターより町報を見てボランティアを始める。



◆森田 利行様

A2 いろいろあるけど、会うことにより自分なりにパワーを感じています。ありがとうございます。

A3 年に1回くらいは同じ作品を作つてみたらどうかなと思うことがあります。

A1 5年前から、友人に声をかけていただいている。



◆市川 智子様

A2 知的障がい者との関りがなく、対応の仕方に不安がありました。利用者様の人なつこさや、やさしさに感動を覚えました。彼らとに垣根を持っていたのは自分自身だったと気づきました。

A3 毎回短時間のなかでの製作で慌ただしいことですが、現状に満足しています。職員の方々の対応にも感謝します。

A1 鹿屋市民になりました20年ほど前でしょうか、市民講座に参加したことがきっかけで陶芸に興味を持ち、ボランティア助手として参加するようになります。

A2 人に教えることの難しさを感じながら、素晴らしい先輩たちの手伝いが少しでも上手くいくよう毎回努力日々……。

A3 合作を!!意見の交換をしつつ作る作品を。日々反省しつつ進んでいくつもりです。

A1 4～5年くらいになると思います。今泉さんを通してお世話になっています。

A2 1ヶ月2回ほどの時間ですが、私は楽しく過ごすことで出来ますが、どれだけ皆さんのお役に立てているのか心配もあります。もっと皆さんの心中を読み取れるようになりたいです。

A3 笑顔を忘れているような人、言葉を発することのない人がちょっとしたときに変化がおきることを見た時の喜びは、私の成長の一歩だと思います。

A1 鹿屋に来て30年近くになります。始めて陶芸を習い始めて楽しくなり、保元先生のお手伝いをしたのがきっかけです。

A2 利用者の方が満足そうにされる時、作陶するときの真剣な表情、それは物作りする者みな同じです。時々厚かましく手を出しそぎることを恥じています。既成概念にとらわれない発想に執着したい。

A3 青空市場でみんなとワイワイやりたい。

A1 退職後、新樹楽園のボランティアをしようと決めていました。今泉先生のお誘いで今に至っています。

A2 利用者さんが、私を見ていて下さり、何年もお会いしていなかったのに、その当時と変わりなく接してくださいます。また、陶芸も感性豊かな作品ができますね。

A3 出来上がった作品を展示したり、販売できるようなサテライトショップがあればいいですね。



◆松川 洋子様



◆切道 なみ様



◆今泉 美代子様



◆林田 恵子様

編集後記

新元号が“令和”に変わり、はや1年が過ぎようとしています。最近では、新型コロナウイルスが国内外で流行拡大しており、日常生活にまで影響が出て来ています。デマが拡散する等、情報が錯綜し混乱も見られています。法人でも、手洗いやアルコール消毒等、出来る限りの予防に努めてまいりたいと思います。

天上会に入職して早いもので7年目になります。学童療育るうとに3年、新樹楽園に3年、こどもからおとなの方々と、幅広くかかわらせてもらっています。記事でもあるように、3月でるうとを卒園した彼は、私が入職した当時小学生でした。そんな彼が、4月から社会へ羽ばたこうとしています。私にとってあっという間の7年でしたが、改めて感慨深いなと思うところです。ひとり一人のかけがえのない人生の一部に、関わさせてもらっている事を忘れず、寄り添って行けたらと思います。

(新樹楽園 枝元 翔平)